

“Casual Browser & Serious Reader”

—— 新入生を迎えて ——

図書館長 八木 幹

春一番。橋を渡ると、波風が頬にはげしく吹きつける。陽光の季節を前に、きびしい冬を生き残った水のきらめきが、勢いよく反転、岸辺で乱舞する。流れゆく水は、やがて河口に達し、限りなくのびた白波にのまれてしまう。想像の視線に、遙か海原の涯の異国の野や山で、牛が新芽を食み、鹿が若枝をつく。

往還にバスがくる。町中に出て大型書店をのぞくと、相変わらずの人出だ。今は昔、個人書店で後ろめたさをのぞかせての立ち読みも、此处では、すこしの気かねも示さずに、人々は競いあって新刊書に手をのぼす。信じ難い光景だが、中には、書棚に背を向け、顔を正面から殊更に周囲にさらすようにして、商品を手し、無心になっている若い人も見かける。たまたま知人を待ちあわせているとしたら、大勢の人中でも、如何にも目立つ効果的な着想かも知れぬ。時に車中で見かけるあの銀の指定席を平然と占有する健康な若者のすがたが思いうかぶ。

買うのでもなし、買わぬのでもなく、ゆっくりと広い店内をぶらついて、背表紙を見渡す。時に立ち止っては、視線にとびこむ一冊、二冊と手にとって、頁をめくる。この感触に疲れがとれて、何時もながら、格別の感興がわいてくる。既に書評の対象になった問題の書物との出会いも、まったくその場の偶然に目にとまった一冊も、何れも、日常生活の単調な無気力に快い刺激を起こす。財布の中身に関係なく、browser にとっての一寸し

た充実感、気晴らしの瞬間だ。

例年、入試が終って、卒業式を控える間隙を縫うように、大学図書館は所蔵本の在庫調査を実施する。一週間を越すこの期間、館員が手わけして懸命に目録カードと照合して、館内の図書の確認をする。これは、細心と手順を要する大変な作業であり、その労力により、行方不明の書物、紛失本が照合される。今年も、在庫調査実施の季節が到来した。館員のいっせい作業を横目に、翻って大学図書館の機能、図書館利用者の目的、要請を考えると、決してそれが一様ではない、屈折した様相をもつことに気付く。専門領域の研究資料、文献の調査に明確な意識をもち、積極的に二次資料を駆使して、より正確な最新の情報入手につとめる学究者から、期末試験期に学習ノート、参考書を持参して、便利な自習室を実現する学生にいたるまで図書館をめぐる現状は様々な機能、目的をもつ。せっかく用意された目録カードも、情報検索が不備であれば、知識の宝庫を前にして、空しく手ぶらで退館することになりかねない。開架式閲覧室の活用と並行して、より積極的な資料、文献の利用が望まれる。“read”の語法を見ると、その一つにある分野を研究する、専攻するとある。このことを時に思いうかべて、図書館の利用を工夫してもらいたいと思う。今後四年間の大学生活で何を読むかと言うことが、そのまゝ何を専攻したかと言う自負につながってゆくことを期待したい。

文学部教授(英文学)



図書館と私

文学部 児童教育学科 3年

小長野 清子

本を読みますか？レポートの作成ですか？あなたは一体、何をしますか？私が図書館に足を運ぶのは、心が塞いでどうしようもなくなった時。そう、何か気まずい思いをかかえて、自分の殻に閉じこもってしまいそうな時です。日頃見えることのなかった自分を、腕から足からひとつずつひとつずつ、丹念に打ち砕く時間がほしいのです。几帳面な性格からではなく、ただの神経質から物事をくよくよ考える私。そんな私をまた情けなく思っている私。「これでいいのか、本当にいいのか」と、問いかける空間がほしいのです。

念願の国文科進学が果せないまま、既に二年が過ぎました。「私がこれからやらなければならない事は何か。私自身を高めてゆく為にしなければならない事は何か」早く、早く、とそればかりが頭にあって、講義もうわの空でした。クラブも続かず、友人もあまりできず、でもどうしたらよいか、結局は何もつかめませんでした。

ひとりになりたい。もっと心を落ち着けたい。そんな時に出会ったのが、図書館の静粛でした。うつむいていても、黙っていても、誰にとがめられることもありません。笑う必要も泣く必要もない、「さあどうだ」と迫ってくるものも、「もうこれまで」と突き放すものもない、そこは中立な世界です。

図書館の南の窓越しに見える光景が好きです。県立高校と予備校と、大学構内と舗装道路と、そして行き交う人々と。これらを分かつのは一連のブロック塀にすぎませんが、でもどんなに古くても低くても、これは大事な仕切りなのです。——彼らには彼らの持ち場がある。私には私の座標がある。だから頑張れ！ひとり残らず、もっともっと頑張れ！

考えに考え抜いた末に訪れた思いは、こんなに朗らかでまっすぐなものでした。やはり春だからでしょうか？

これからの毎日が、あなたにとって私にとって、もっと明るくもっと優しいものとなりますように、心から。

商学部 経営学科 4年

橋 脇 誠

私が毎日のごとく図書館へ足を運ぶようになったのは、二年生の終わり頃でした。その頃、私は国家試験に挑戦しようと、本気になって勉強を始めたのですが、自宅では誘惑が多いのと、周囲の騒音がうるさいため、図書館を勉強の場として選んだのです。

また、書架に並ぶ多くの文献は、私の頼りない脳ミソ君を助けてくれるパートナーになります。情報化社会と言われる今日、活字がすべてでないにせよ、探せば必ずと言っていいほど、自分の期待に添えてくれる一冊が見つかるようです。

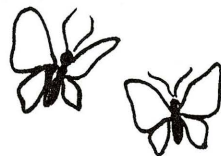
けれども、私にとって、図書館通いには、こうした多数の蔵書がある故以上のメリットがあります。

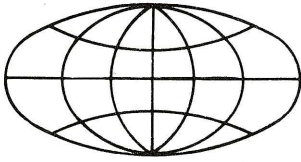
講義のない時は、大抵テキストやレジュメを抱えて三階の閲覧室へ上って行くわけですが、ここへ入って椅子に腰を下ろすと、性来、じっとしていることのできない私でも「勉強せんといかんなあ」という気になります。なにしろ、周りを見ると、一心不乱に六法全書とにらめっこする人、横文字ばかりの辞書をめくる人が、何人もいるのです。朱に交われば何とやら、私でも殊勝な気持ちになります。

しかしながら、慣れとは怖いもので、最近はこうした刺激にも不感気味で、煩悩にとらわれがちです。

今、梅の木が可愛い花をつけていますが、やがて、桜の淡い色合が春の陽気を伝える季節です。キャンパスを歩く新入生の生き生きとしたざわめきは、図書館の中まで伝わってきます。

おそらく、それは私の新しい刺激となり、いつしか、あの、図書館へ入った時の、ブンと鼻先をつくインクの匂いは、私の学生時代の思い出を語る一つとなることでしょう。





外国図書館シリーズ

ゲッテンゲン大学図書館

NIEDERSÄCHSISCHE STAATS- UND
UNIVERSITÄTSBIBLIOTHEK GÖTTINGEN

— 西 ド イ ツ —

文学部助教授 戸 星 善 宏

ゲッテンゲンの大学が、町のややはずれに位置しているのに対し、大学図書館は、町の中心部に宏壮な構えを誇っている。この図書館ができたのは、1734年、赤穂浪士の討入りが1702年、大英博物館が建てられたのが1753年であることを思えば、その由緒の深さもしのばれようというものである。蔵書は、250万冊以上に達し、1500年以前の古版本だけでも6,000冊以上を数える。しかしだからといって決していかめしげな、近づきたい様子は少しもない。すべての人のために——ゆきずりの一外国人のためにも——いつでも、自由に利用できるようになっているのである。

どうということもないガラスのドアを押して、館内に入ると、右手にロッカーがずらりと並び、正面ロビーの小脇には、20脚ほどの椅子が置いてある小さな部屋がある。この Tonbildschau では、フィルムが、館内の様子や組織を説明している。

ごく一部の、総記に属する書籍を除いては、他はすべて閉架式であるから、利用者は必ずカードによって、自分の求める本を探さなくてはならない。ところでこのカード方式が、実にドイツ人的徹底さをもって、整備されている。まず Alphabetischer Katalog がある。これには、著作者名がアルファベット順に整理されている。しかも1930年以前のは、Bandkatalog として、別に立派な革表紙の本になって別室に備えられてある。このカタログには、学位論文から、定期刊行物、雑誌まですべてが網羅されている。次に Systematischer Katalog がある。ここでは文献目録が分野別に記録されているか

ら、これを一覧すれば、読むべき文献がおのずと明らかになる。私がとつても重宝に思ったのは、Schlagwort-katalog である。これは項目別目録というべきもので、いわばカード式大百科事典である。例えば、Valenz という用語は、言語学で用いられるようになって、まだ日が浅いが、これについて知ろうと思えば、このカタログを利用すればよい。Valenz 「原子価」という項目の下に、物理・化学上の文献目録がずらりと並び、その次に言語学上の文献が、まだカードの色も新しくひとまとまりになっている。

これほど完備しているカードでもまだ不足しているところがある。それは楽譜と外国文献で、前者はまったく別のカードに、後者もカードと本になっていて、この図書館にないときには、直ちにとり寄せてもらうことができる（こういうサービスが本学の図書館にもあればいいと思う）。

私がもうひとつ特徴的だと感じたのは、Lehrbuchsammlung である。ここには、現在使われている教科書、及びこれに関連して必要な参考書がすべて所蔵されていて、学生は最も必要な教科書以外は、すべてここで借り出すことができるのである。

たしかにドイツは、日本にくらべて本が高い。その反面、図書館が実に有効に機能を果たしている。図書館の雰囲気は、静粛であっても、決して閉鎖的ではない。自由な空気にみちている。なにしろここには、討論室まであるのだから。

(ドイツ語)

(筆者は昨年12月から留学中)

☆ ニュース・お知らせ ☆

＜入退館および館内の利用案内＞

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんを対象とした、初歩的な図書館利用案内を書いておきますので、目を通して早く利用に慣れてください。なお、詳しくは折込みの「図書館イラスト・マップ」(館員、首藤マヤ絵)、別冊の「西南学院大学図書館利用案内」を、お読み下さい。

〔入館手続〕

1. 袋類(バッグ)やコートは1階のコインロッカーに入れて入館してください。(コインは退館の際戻ります)
2. 2階カウンターで学生証を提出し、備付の「開架閲覧室利用票」(ロッカー使用者は赤、その他は白)をとって入室してください。

〔図書の利用〕

1. 図書の有無を調べたい時は、3階ホールにある目録カード(著者名、書名、分類)を利用します。不明な点がありましたら、2階カウンターでお尋ねください。
2. 目録カードに「closed」の印のあるもの、雑誌類のバックナンバーや論集・紀要など閉架書庫に所蔵しているものを利用する際は、「館内閲覧票」に所定事項を記入の上、申し出てください。
3. 図書は日本十進分類法(NDC)により整理され、学部ごとに配架されています。利用したものは、書架に戻さず、各階閲覧室入口の「図書返却台」に返却してください。

〔帯出手続〕

1. 図書を帯出する際は、2階カウンターで手続きをします。返却期限が過ぎると、1日1冊につき10円の延滞金を払わねばなりませんので注意すること。

〔退館手続〕

1. 2階カウンターで「開架閲覧室入館票」に、学番号・氏名を記入したものを提出し、学生証を受け取って退館します。

(閲覧係)

＜図書館委員会＞

- 56.3.20 ① 昭和56年度図書館予算について
② その他

＜研修・出張＞

科学技術情報流通技術基準普及説明会(主催:科学技術庁、日本科学技術情報センター)

(56.2.26 於:福岡朝日ビル) 今永課長補佐出席

＜人事＞

任用 司書 藤井 俊彦(56.4.1付)
〃 大羽 康二(〃)
司書補 田中 朋子(〃)

＜在庫調査の実施＞

去る3月10日から17日まで、図書館所蔵の約33万冊の図書について、その在庫の確認のため図書1冊1冊について照合調査を行ない、併せて目録、原簿等の整備をはかった。

この間利用者の皆様にはご迷惑をおかけしました。

告知板

昭和56年度 図書館行事予定表

56年

2月7日(木) ～ 4月10日(金) 春季休暇
学習室閉室
2月10、12、13、14日は入学試験のため休館
4月7日(火) 新入学生利用指導(文・法)
8日(水) 〃 〃 (商・経)
5月11日(月) 学院創立記念日で休館
7月1日(火) 夏休長期貸出開始(9月18日まで)
11日(土) ～ 9月3日(木) 夏季休暇
学習室閉室
9月8日(火) ～ 9月28日(月) 前期試験
29日(火) 30日(水) 大学休業のため休館
11月中旬 大学祭期間中学習室閉室
12月15日(火) 冬休長期貸出開始(1月17日まで)
25日(金) ～ 1月7日(木) 冬季休暇
学習室閉室
26日(土) 開館9:00～12:00
28日(月) ～ 1月5日(火) 年末年始の休館

57年

1月19日(火) ～ 2月5日(金) 後期試験
28日(水) 春休長期貸出開始
(卒業予定者は2月末日まで)
(上記以外者は4月22日まで)
2月6日(土) ～ 4月10日(土) 春季休暇
学習室閉室
中旬 入学試験のため休館
3月中旬 在庫調査で開架閲覧室閉室

休館・閉館その他行事予定については、
そのつど、図書館の玄関に掲示します。